

昭和58年9月洪水

- ・2日雨量（国包上流流域平均）225mm
中流部で堤防決壊による浸水被害が発生。

昭和58年9月28日洪水の被害状況

洪水名	要因	死傷者 (人)	建物被害			浸水面積 (ha)	被害額 (百万円)
			流失 (戸)	床上 (戸)	床下 (戸)		
昭和58年 9月28日	前線	—	4	368	1,666	1,013	2,023

出典：水害統計



西脇市街地の浸水（西脇市：昭和58年）



鬮竜灘（加東市滝野町：昭和58年）

平成16年10月洪水

- ・2日雨量（国包上流流域平均）217mm
戦後最大の流量が発生。

平成16年10月20日洪水の被害状況

洪水名	要因	死傷者 (人)	建物被害			浸水面積 (ha)	被害額 (百万円)
			流失 (戸)	床上 (戸)	床下 (戸)		
平成16年 10月20日	台風23号	—	—	430	1,222	1,447	76,805

出典：水害統計



右岸32.6kの浸水状況（加東市滝野町：平成16年）



鬮竜灘（加東市滝野町：平成16年）

1.2.2.治水計画の変遷

●明治～戦前

M40. 8 洪水（台風）

流域平均雨量2日雨量：190.2mm

国包地点流量：不明

建物被害 流失：83戸、浸水：2,999戸

浸水面積：14,375ha

T 7 加古川改修工事（第一期治水計画）

基準点：国包

計画高水流量：4,450m³/s

計画対象洪水：M40.8洪水（実績規模）

改修区間：美の川合流点より下流

T 1 0. 9 洪水（台風）

流域平均雨量2日雨量：212.5mm

国包地点流量：不明

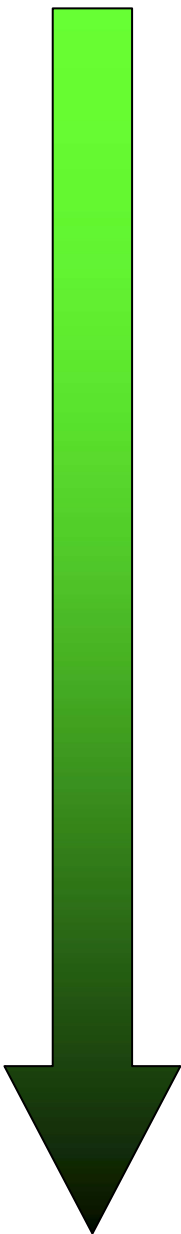
建物被害：不明

浸水面積：2,705ha

S 8 加古川改修工事完了

S 1 6 加古川中小河川改修工事（兵庫県）

●昭和20年～40年代



S20. 10 洪水（阿久根台風）

流域平均雨量2日雨量：240.1mm

国包地点流量：約7,800～9,050m³/s（推定流量）

建物被害：不明

浸水面積：不明

S40. 9 洪水（前線）

流域平均雨量2日雨量：208.4mm

国包地点流量：3,600m³/s

建物被害 流失：110戸

浸水：床上651戸、床下2,730戸

浸水面積：7,904ha

S42 加古川工事实施基本計画（国）

基準点：国包

計画高水流量：4,450m³/s

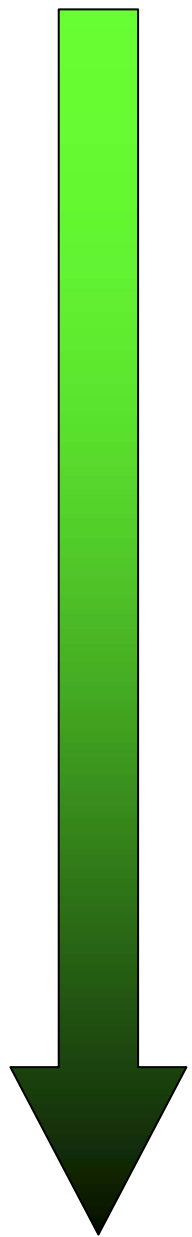
計画対象洪水：M40.8洪水（実績規模）

直轄管理区間：本川 河口～36.3km

万願寺川 合流点～3.1km

東条川 合流点～2.0km

●昭和50年～60年代



S51. 9 洪水（台風17号及び秋雨前線）

流域平均雨量2日雨量：191.4mm

国包地点流量：2,800m³/s

建物被害 浸水：床上143戸、床下1,657戸

浸水面積：5,923ha

S56 加古川大堰建設開始

S57 加古川工事実施基本計画（流量改定）

基準点：国包

計画規模：1/150

基本高水のピーク流量：9,000m³/s

洪水調節施設での調節量：1,600m³/s

河道への配分流量：7,400m³/s

S58. 9 洪水（秋雨前線）

流域平均雨量2日雨量：225.1mm

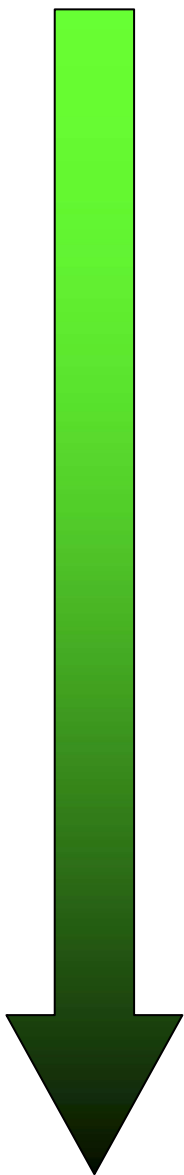
国包地点流量：4,900m³/s

建物被害 流失：4戸

浸水：床上368戸、床下1,666戸

浸水面積：1,013ha

●平成～現在



H元 加古川大堰完成

H16.10 洪水（台風23号）

流域平均雨量2日雨量：216.7mm

国包地点流量：5,900m³/s

建物被害 浸水：床上430戸、床下1,222戸

浸水面積：1,447ha

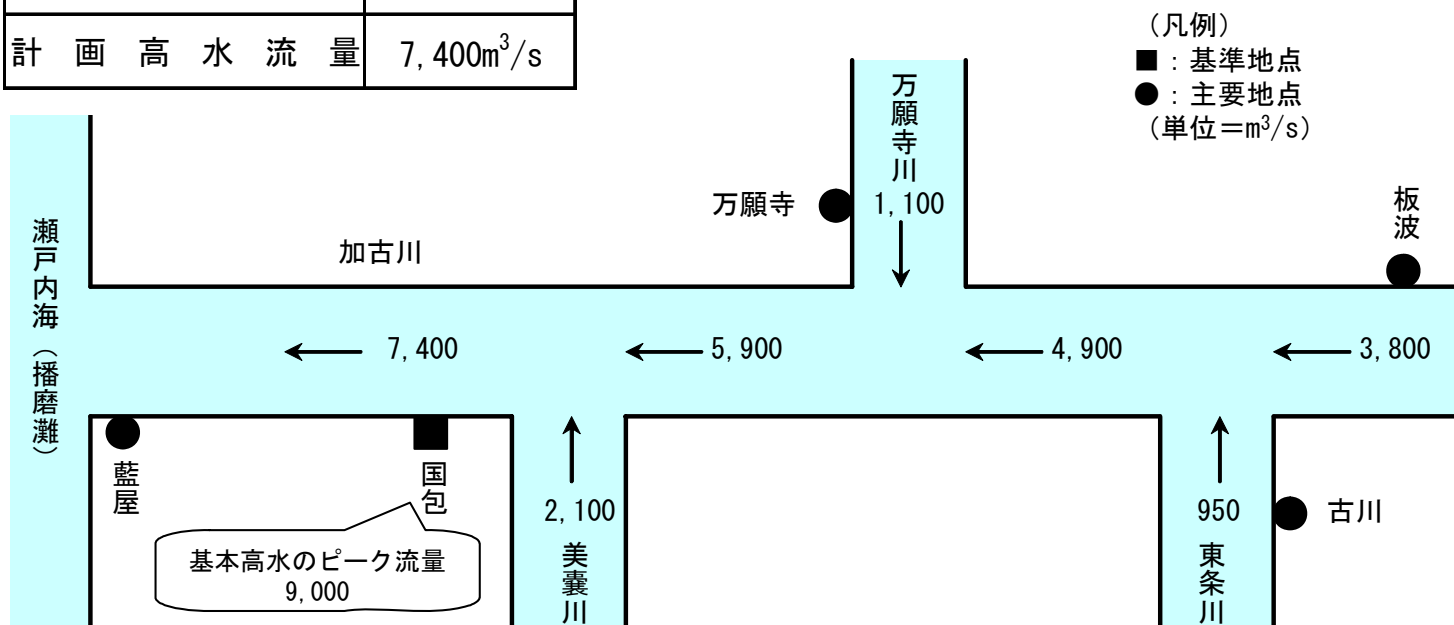
H16～H21 加古川激甚災害対策特別
緊急事業（兵庫県管理区間）

H16～H20 河道掘削事業（国管理区間）

1.2.3.既定計画

現計画（S57年加古川水系工事実施基本計画）

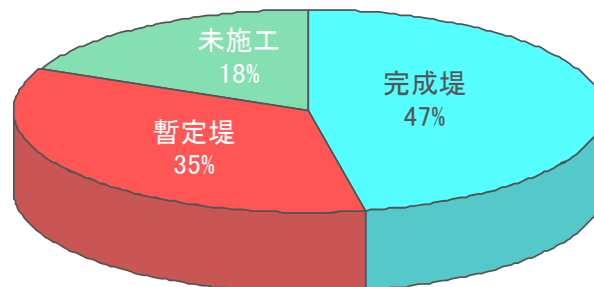
基準地点	国包
計画規模	1/150
計画降雨量	271mm/2日
基本高水のピーク流量	9,000m ³ /s
計画高水流量	7,400m ³ /s



1.2.4.治水対策（主な工事内容）

概ね8割の区間で堤防が整備されている（暫定堤を含む）。

堤防整備状況



加古川大堰

加古川大堰の目的
《治水》

- ・洪水の安全な流下
- ・固定堰の機能を統合し、流下阻害を回避

堤防整備状況（平成17年調査結果、国管理区間）



JR山陽本線加古川橋梁架替

JR山陽本線
加古川橋梁

加古川大堰

国包地点

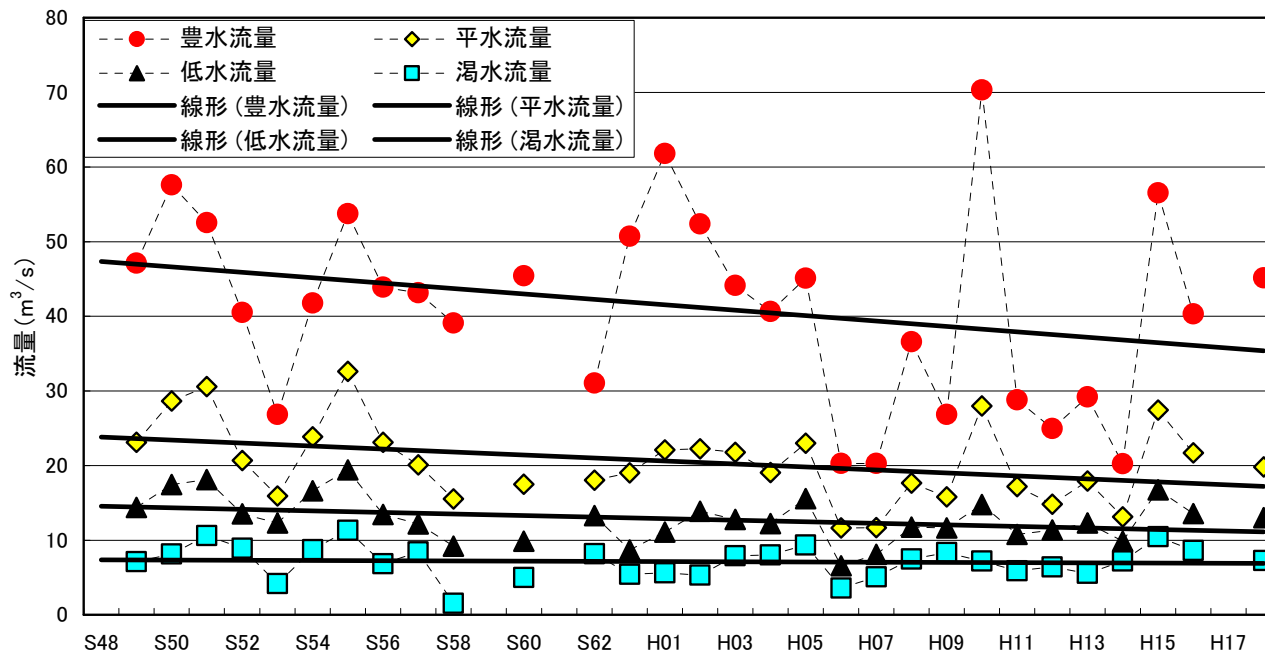
凡例

- 完成
- 暫定
- 未施工
- - - 不要

1.3.利水の現状

1.3.1.河川流況

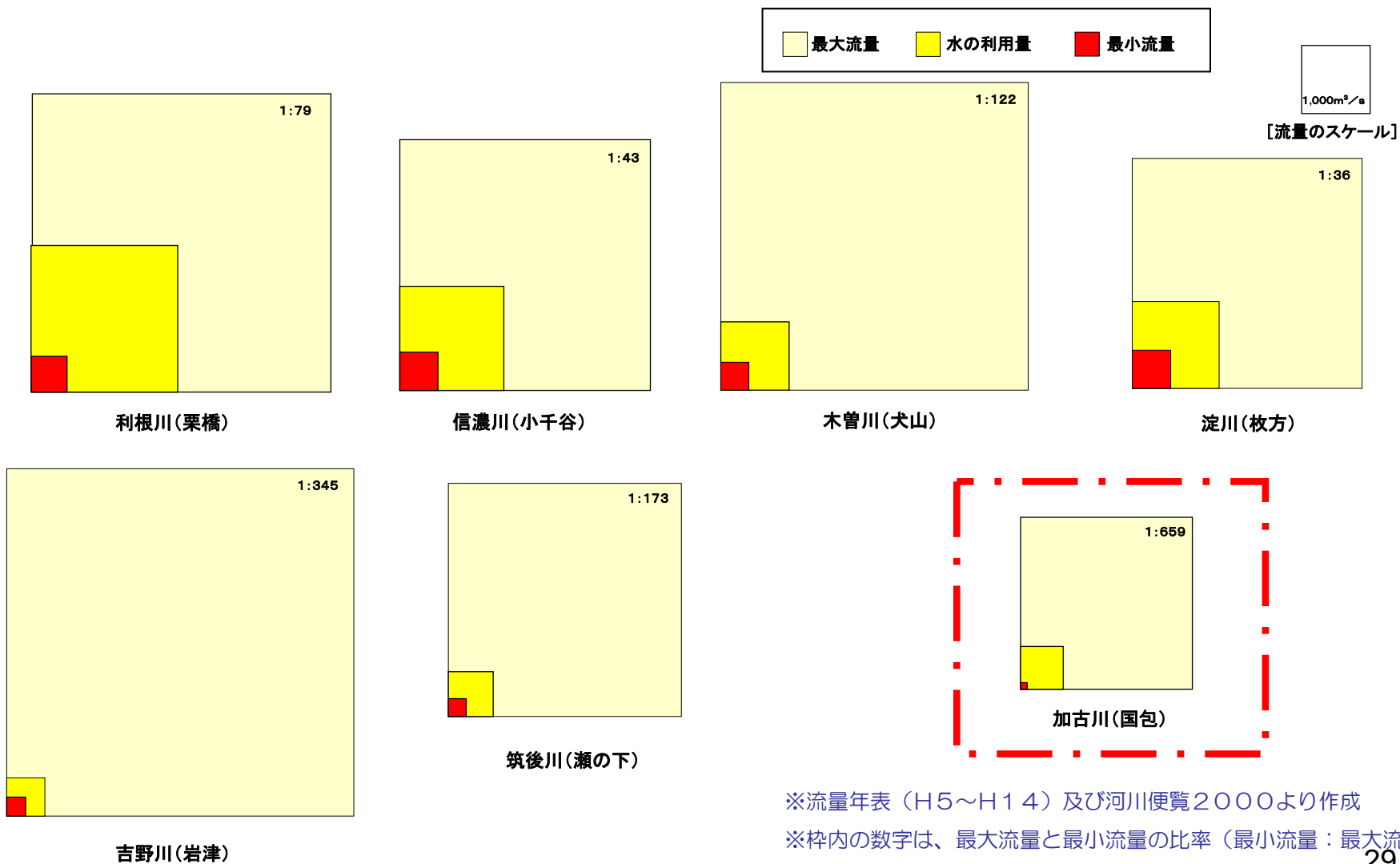
流量減少の傾向が見られる。



豊水流量 : 1年を通じて95日は
これを下回らない流量
平水流量 : 1年を通じて185日は
これを下回らない流量
低水流量 : 1年を通じて275日は
これを下回らない流量
渇水流量 : 1年を通じて355日は
これを下回らない流量

国包地点流況経年変化

流況は比較的安定していないと考えられる。



※流量年表（H5～H14）及び河川便覧2000より作成
 ※枠内の数字は、最大流量と最小流量の比率（最小流量：最大流量）
 ※水の利用は、暫定水利権も含めた全水利権。
 ※淀川については、琵琶湖周辺域の水利用分は除く。

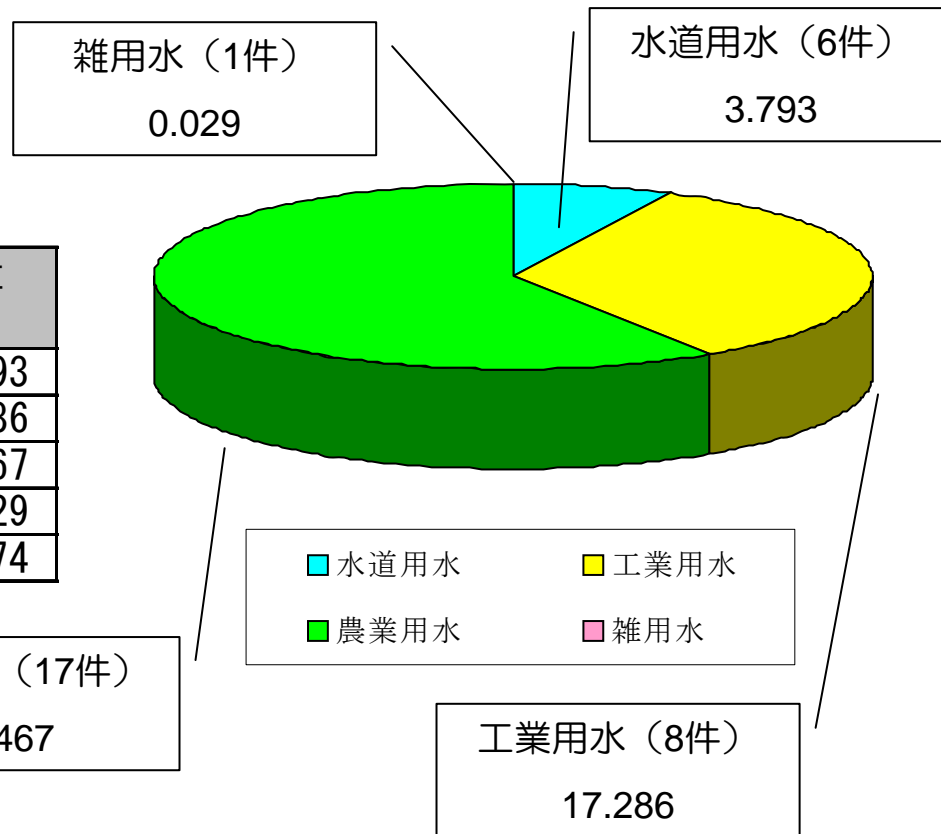
1.3.2.水利用の実態

◆ 利水状況

古くから農業用水を主体として利用されており、現在でも、上水道用水、工業用水等多岐にわたり利用され、東播磨地域の発展に欠かせない水源である。

加古川利水状況

目的別	件数	最大取水量 (m^3/s)
水道用水	6	3.793
工業用水	8	17.286
農業用水	17	30.467
雑用水	1	0.029
合計	32	51.574



◆ 取水の現状

主な取水施設として、ダムがあり、その他古くから設置された井堰や揚水機場によって、さまざまな形態で取水がなされている。



こうじゃ
糞屋ダム



鴨川ダム



加古川大堰



川代ダム



大川瀬ダム



とんど
呑吐ダム

◆ ため池

ため池は、農業用水を安定的に確保するために数多く築造されてきた。

全国ため池数上位6県

都道府県名	ため池数
兵庫県	47,569
広島県	20,910
香川県	15,990
山口県	11,785
大阪府	11,308
岡山県	10,304

出典：農林水産省農村振興局（H9年調査）



印南野台地のため池群
(出典：いなみ野ため池ミュージアム)



県内最大のため池：加古大池
(貯水面積：48.9ha, 貯水量：1,300千m³)
(出典：兵庫県)



地域交流
(ため池クリーンキャンペーン)
(出典：いなみ野ため池ミュージアム)

1.3.3. 渇水

平成6年の渇水時には1ヶ月半程度にわたり、取水制限が行われた。

平成6年渇水の経過

月日	会議等	決定事項	取水制限			大堰貯水量	
			農水	上水	工水	貯水量 (千m ³)	貯水率 (%)
7月20日	第1回 情報連絡会議	水文、気象等情 報交換				1,478	90
7月26日	第1回 渇水調整会議	26日19時より8万 m ³ /日取水制限実 施	19h~2h (7hr) 取水停止	自主節水	15% 取水制限	575	30
7月27日	姫路工事事務所 渇水対策支部設置						
7月28日	第2回 渇水調整会議	28日18時より11万 m ³ /日取水制限実 施	18h~2h (8hr) 取水停止	10% 取水制限	15% 取水制限	430	26
8月1日	第3回 渇水調整会議	1日17時30分より 18万m ³ /日取水制 限実施	17h~3h (10hr) 取水停止	30% 取水制限	40% 取水制限	175	11
8月1日		加古川大堰最低 貯水量を記録				140	8.5
8月23日	第4回 渇水調整会議	18万m ³ /日取水制 限継続 緊急放流8万m ³ / 日解除	17h~3h (10hr) 取水停止	30% 取水制限	40% 取水制限	943	58
9月12日	第5回 渇水調整会議	12日17時をもって 取水制限を全面 解除				1,666	102



閼竜灘 (35.0K付近)

1.4.環境の現状

1.4.1.河川環境区分

上流部：篠山川合流点～源流

中流部：美の川合流点～篠山川合流点

下流部：古新堰堤～美の川合流点

感潮域：河口～古新堰堤



加古川は上流部までなだらかなため、通常なら中～下流部で見られる魚種が上流部でも生息している。

区分	加古川				支川：篠山川 上流部
	感潮域	下流部	中流部	上流部	
区間	河口～古新堰堤	古新堰堤～美の川合流点	美の川合流点～篠山川合流点	篠山川合流点～源流	
地形	平地	平地	平地	平地・山地	平地・山地
特性	汽水域、干潟	湛水域、瀬・淵	瀬・淵	瀬・淵、溪流環境	瀬・淵、溪流環境
河床材料	砂礫	砂礫	砂礫	砂礫～礫	砂礫～礫
勾配	約1/2,000	約1/1,000	約1/1,000	約1/40～1/600	約1/150～1/500
植物相	塩沼植物群落、 アイアシ群落、 ヨシ群落	ヨシ群落、 ヤナギ群落、 多年生草本群落	ヨシ群落、 竹林、 多年生草本群落	スギ・ヒノキ植林、 アカマツ群落、 水田雑草群落	スギ・ヒノキ植林、 アカマツ群落、 水田雑草群落、 アラカシ林、ケヤキ林
動物相	ミサゴ、オオヨシキリ、 カンムリカイツブリ、 ●シロウオ、●シラウオ、 ●ミミズハゼ、●ヒモハゼ、 ハクセンシオマネキ、 ヨドシロヘリハンミョウ	ササゴイ、オオヨシキリ、 カンムリカイツブリ、カワセミ △カネヒラ、△メダカ、 トンガリササノハガイ、 ジュウサンホシテントウ	チュウサギ、ヤマセミ、 アナグマ、 △オヤニラミ、△アブラボテ、 △イチモンジタナゴ、 △スナヤツメ、 ホンサナエ、ヒメカマキリ	ハチクマ、アオジ、 オオサンショウウオ、 モリアオガエル、 △オヤニラミ、□アブラハヤ、 □アカザ、 ■ナガレホトケドジョウ、 アオハタトンボ	イソシギ、アオジ、 オオサンショウウオ、 △オヤニラミ、□アカザ、 □スナヤツメ、□ムギツク、 ■ナガレホトケドジョウ、 ゲンバイトンボ

凡 例

●：下流部

▲：中流部

■：上流部

△：中～下流部

□：上～中流部

◆ 上流部

一部急流部があるものの、概ね丘陵地の様相を呈している。



佐治川源流部



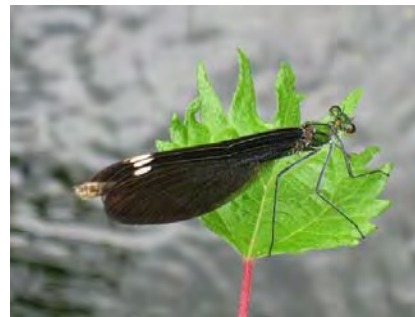
ハチクマ
(環境省RL：準絶滅危惧)



ムカシトンボ
(兵庫県RDB：要注目種)



佐治川谷底平野



アオハダトンボ
(兵庫県RDB：Aランク)



バイカモ
(兵庫県RDB：Bランク)

(支川：篠山川)

抽水植物の繁茂した岸近くの緩流部には、オヤニラミ等が生息・繁殖している。



篠山川谷底平野



ナガミノツルキケマン
(近畿RDB)



オヤニラミ
(環境省RL：絶滅危惧Ⅱ類)



川代溪谷



カマツカ



アカザ
(環境省RL：絶滅危惧Ⅱ類)

◆ 中流部

低湿地では、マメ科の落葉高木であるサイカチが樹林を形成している。



中流部（闘竜灘周辺）



フサナキリスゲ
(近畿RDB)



サイカチ
(近畿RDB)



ミクリ
(環境省RL：絶滅危惧Ⅱ類)



ハンゲショウ
(兵庫県RDB：Cランク)

◆ 下流部

加古川大堰より上流区間は広い湛水域となっており、自然植生はほとんど存在しないが、カンムリカイツブリやカモ類の集団越冬地となっている。



下流部（加古川大堰周辺）



オオヨシキリ
（兵庫県RDB：Bランク）



抽水植物群落
（ヨシ群落）



タコノアシ
（環境省RL：準絶滅危惧）



ミゾコウジュ
（環境省RL：準絶滅危惧）39



感潮域

感潮区間の中間部は塩沼植物群落や砂丘植物群落が分布しており、中洲には入り組んだわんどやよどみがみられ、ハクセンシオマネキ等の重要な生息環境となっている。



シラウオの産卵場



中洲に広がるヨシ群落



河口部の塩沼植物群落
(兵庫県RDB：Aランク)



ハクセンシオマネキ
(環境省RL：準絶滅危惧)



ヨドシロヘリハンミョウ
(環境省RL：準絶滅危惧)



シラウオ
(兵庫県RDB：Aランク)



アイアシ
(兵庫県RDB：Cランク)